

江戸のトイレ事情と下肥取引

メモ)鉄本 (2024.12.28)

博物館に中・近世頃の町屋模型があります。中世の堺の町並について学芸員の續伸一郎氏が著した文献に面白い記述がありました。以下に一部を引用します。

この建物は、道路側、つまりに表に埋糞・木枠で作った便所を配置した特異な構造をもっていた。民家建築の常識で言えば便所は、普通は母屋建物の奥、つまり屋敷地裏手に置かれるものである。この便所を表の「**棚みせ**」の部分に配置するという構造は、水洗トイレに慣れた現代的感觉では一見非常識と思えるが、「汲み取り」という機能性を考えると「背割道路」の未発達な裏手よりも道路に面した表の方がはるかに便利である。

出典:『中世の風景を読む 5』 新人物往来社 より 都市「開かれた防衛都市 堺」 續伸一郎

上記の記述にある建物の場所は、環濠都市堺の発掘番号 SKT361 であり、現在の堺市堺区材木町東2丁付近である。續氏によると、この建物は長屋風建物であり、道路に面した建物の表側には埋糞・木枠で作られた所がみられる。このような構造の場所は、町屋中心部から外れた神明町付近、環濠都市東部など3～4ヶ所で確認されている。SKT361の住人は出土遺物から鋳物師が推測され、また、人糞尿を必要とする人物即ち農耕民が住む、職人と農耕民が混住する場所と推定される。



表に「便所」を持つ家 (SKT361、堺市立埋蔵文化財センター提供)

以上のような発掘調査報告を参考にしつつ近世の人々のトイレ事情を調べてみた。以下の書籍を中心に、江戸時代の「トイレ事情」と「下肥取引」についてまとめた。

- ①同成社江戸時代史叢書『大江戸トイレ事情』 根崎光男 同成社 2024
- ②新潮新書『江戸のおトイレ』 渡辺伸一郎 新潮社 2002
- ③歴史新書『江戸の銭勘定』 山本博文 洋泉社 2017
- ④図解『江戸の間取り』 安藤優一郎 彩図社 2020

1. 屎尿処理の歴史的概観

屎尿の扱いの変化 : 平安時代以前:**廃棄物** → 鎌倉～江戸時代:**資源** → 明治～昭和:**廃棄物**

- ①縄文・弥生時代 定まった便所は無く、野外排便だったことが推測される。屎尿は住居周辺の空き地、河川、集落を巡る環濠に廃棄され、自然の分解・浄化作用にまかせていたと考えられる。
- ②飛鳥・奈良時代 住居付近に定まった便所がみられるようになる。屎尿は相変わらず垂れ流し状態。藤原京では、「汲み取り式の便所」跡が見つかった。平城京では、近くを流れる秋篠川、佐保川を汚物の排水路として使った。長屋王邸宅跡では、道路側溝から水を取り入れて、汚物を流し出すという「垂れ流し式便所」が見つかった。
- ③平安時代 平安京では、鴨川や御室川の豊富な水をコントロールしながら、東の堀川、西の堀川へと流し込む「下水システム」としていた。

④鎌倉・室町時代 応仁の乱(1467～1477)頃前までは、前時代と同じく「垂れ流し式」と「汲み取り式」が併存していたが、応仁の乱以降になると、垂れ流しが無くなり、汲み取り式になった。溜めた尿尿は田畑の肥料として重宝されるようになり、近隣の農民が尿尿を買いに来るようになる。

⑤桃山・江戸時代 大名家では畳敷きの豪華な廁を造るのが流行し、庶民生活の中では、路傍の公衆便所が作られた。庶民の多くが住む長屋では、便所はごみ溜め、井戸と併設して12戸程度ごとに共用で個室スタイルの共同便所が1～4つほど並べて建てられた。

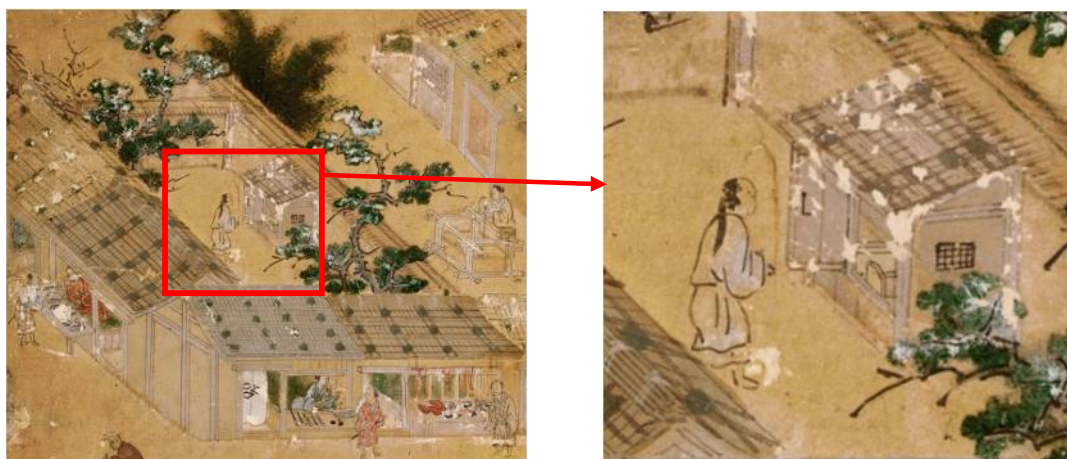
江戸では、人口の増加に伴い農産物の需要が拡大し、その生産拡大のための肥料(尿尿)を必要とした。江戸期初め頃は、農民と町人・武家との間で、尿尿と作物の物々交換が行われていたが、取引が増大するに伴って、金銭によって尿尿を買い付ける下肥取引市場が形成された。寛政年間の下肥高騰期においての市場規模は6万両程度にまで達した。

2. 江戸期の便所事情

①便所の配置



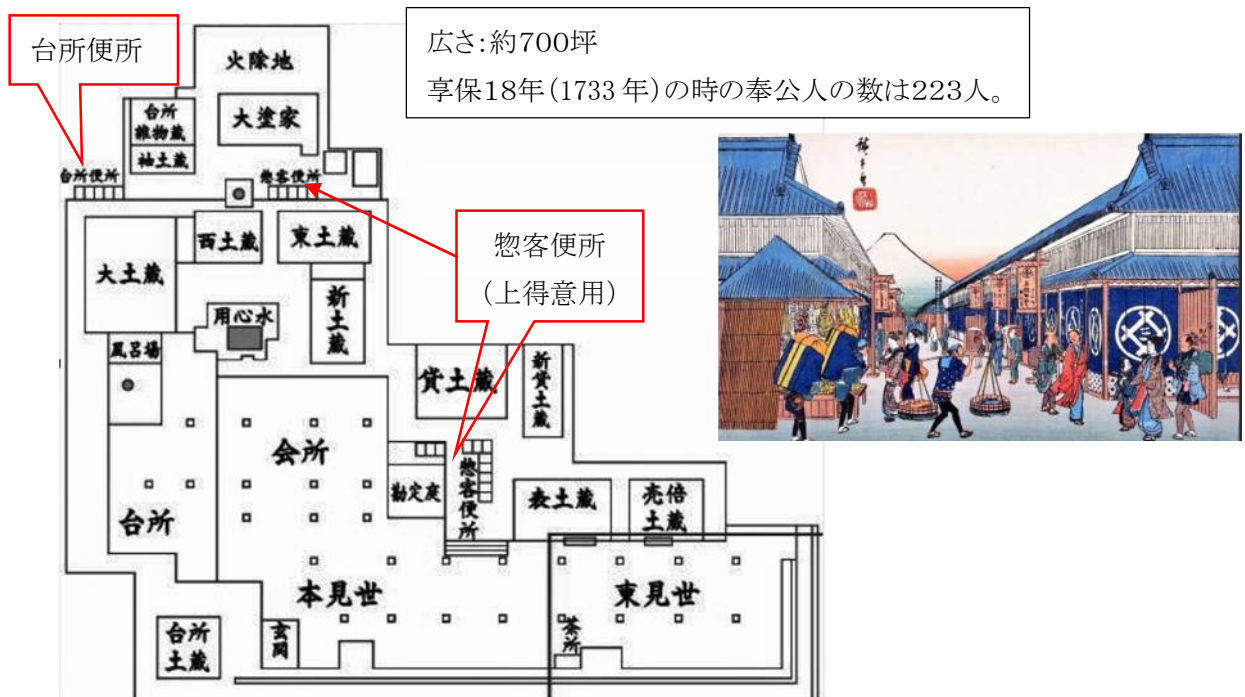
出典: [江戸庶民の暮らし\(1\) | 表長屋と裏長屋の関係 |](#) より



出典: 国立歴史民俗博物館 洛中洛外図屏風(歴博甲本)

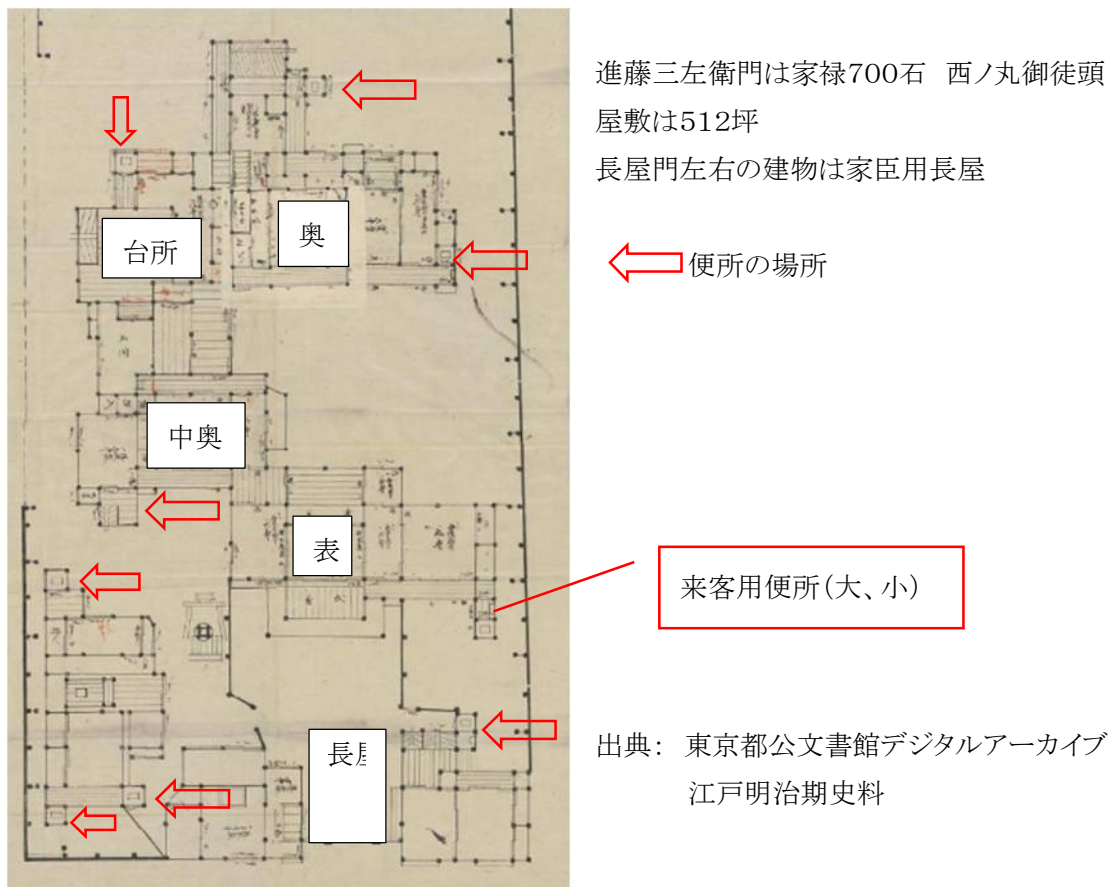
町屋の裏には、井戸から水を汲む光景と、共同便所へ向かう人物が描かれている。便所はとびらが開け放たれて内部の構造がうかがえる。

②商家の便所の配置例 ～三井越後屋の例～



出典： 図解『江戸の間取り』 安藤優一郎著 彩図社 2020

③武家の便所の配置例 ～旗本進藤三左衛門元屋敷の例～



出典： 東京都公文書館デジタルアーカイブ
江戸明治期史料

3. 下肥市場の変遷 ～江戸を中心に～

3.1 江戸初期 彦根藩の例 天和2年(1682)

- ①彦根藩の上屋敷と中屋敷の下肥を世田谷領村々に下げ渡し、金銭の授受はない。
- ②彦根藩は藩の規則に従うことを前提に江戸屋敷に出入りするための鑑札(「株」の割当)を発行。
- ③村人は江戸屋敷の屎尿を汲み取り、村人全員で分配。
- ④実務は世田谷領代官の大場市之丞に委ねられ、大場家は運上の苧豆を上納する義務があった。

⇔ 下肥の金銭的価値の芽生え

3.2 江戸中期 江戸亀島町組屋敷の例 享保18年(1733)

- ①町奉行与力・同心の組屋敷に7名が住んでおり、この家守(管理人)吉左衛門と武蔵国葛飾郡百姓の忠蔵の間で下肥取引契約がなされていた。
- ②享保19年(1734)の組屋敷7名の下肥の代金は合計6両3分2朱であった。

⇔ 下肥の商品化

- ③下肥取引の契約は、町屋敷・武家屋敷と下掃除人である農民との間でそれぞれ個別に行われた。
- ④下肥取引の広範囲化に伴い、陸運や水運を担うもの、仲買人などが現われ取引形態が多様化する。

⇔ 下肥価格の高騰

3.3 江戸後期 下肥値下げ運動が続く

- ①町人の下肥商売による価格高騰を防ぐため、寛政4年(1792)「市中町人下肥商売禁止令」が出される。
- ②禁止令は効果なく、江戸町人から安価な下肥確保のための「小便溜桶設置願い」が提出され公衆便所が設置されることになった。[享和元年(1801)]
- ③文化文政期、天保弘化期、慶応期のすべての期間で、江戸周辺の村々の惣代が連名で下肥値下げ願書が奉行所に出された。
武蔵国東葛西領 [文政2年(1819)] 武蔵国・下総国の283ヶ村の要求 [天保14年(1843)] など

4. 下肥の市場規模

4.1 下肥の価格

武蔵国葛飾郡(現江戸川区)での取引

- ①享保6年(1721)頃 1斗当り:1,125 円
- ②弘化2年(1845)頃 1斗当り:1,125 円(船運賃込み)

江戸周辺の村の惣代が寛延年間の時の値段を希望と町奉行に
価格引き下げを懇願 要望金額:240円/斗

1両=18万円で換算 1斗=18L

肥船1隻の積荷量=4斗×50荷

4.2 百万都市江戸の下肥市場規模(計算)

寛延年間では、1年間の100人当りの下肥価格: 金2両
人口100万人と単純計算すると 2万両(現在価値で36億円)/年
総重量は 27 万トンになる。



下肥と交換するために
農産物を持って町屋を廻る
行商人

出典:『金草鞋』第3編
国立国会図書館蔵

5. 江戸の「トイレ」にまつわる川柳

① 「店中の尻で大屋は肥代で餅を搗き」

長屋の住人(店子)の下肥代金はすべて大屋(家主)のものとなる。

10軒分の賃貸があれば、年間の下肥収入は2~3分(現在価値 9万円~13.5万円)になった。

これだけあれば歳末のモチ代は十分余裕である。因みに、大福餅は当時1個4文(120円)であった。

② 「雪隠の知恵 ふんは出て別は出ず」

昔から雪隠は「思案の場」「分別の場」という認識があったことが判る。

「分別」を、「糞(ふん)」と「別」に分けた所に可笑しみがある。

③ 「無遠慮に叫んで曰く肥取ろう」

肥取りの中には、たまに「肥、取ろう」と呼び声を挙げて、触れ廻る者もいた。これらの触れ歩く

肥取りの中には、高値で下肥を買い取り、それを農家へ高く売りつける者もいた。これが下肥

高騰の原因の1つでもあった。「糶取り(せりとり)」という。「糶」は「競う」と同義。

6. 時代・場所による「トイレ」用語

① 「厠」(かわや)：「川屋」とも書く。語源は、川の上に掛けて作った小屋。家の側の屋の意もある。

② 「雪隠」(せっちん)：語源は「せつじん」。雪竇禪師(せつちようぜんじ)が浙江の雪竇山靈隠寺で
厠の掃除を司った故事に語源がある。

③ 「後架」(こうか)：禅寺で、僧堂の後ろにかけ渡して設けた洗面所のことで、その側に便所があり、
転じて便所の意となる。

④ 「東司」(とうす)、 「東浄」(とうちん/とうじょう)、 「西司」(せいす)、 「西浄」(せいちん/せいじょう)：

禅宗で諸事万般を統制する職を両序(或いは両班)と言い、学徳に長じ僧の指導に当たる頭首(ちよ
うしゅ)を西序(せいじょ)、世法に通じ寺院の事務方を司る知事を東序(とうじょ)と称した。西序の役
僧、東序の役僧、それぞれが用いた便所を「司」または「浄」と表した。

⑤ 「閑所」(かんじょ)：「閑所場」、「灌所」とも表す。

⑥ その他の用語 「手水場」、「御手洗」、「御不浄」、「憚り」など

⑦ 「便所」(べんじょ)：語源は、髪を整える場所としての「鬢所」(びんしょ)、仏教由来の「便利な所」に
由来するなど諸説がある。

参考 HP:

[松井 章:水の風土記 | ミツカン 水の文化センター](#)

[江戸庶民の暮らし\(1\) | 表長屋と裏長屋の関係 | 江戸長屋の種類 | 大家の仕事 | 長屋住人の職業と収入 | 裏
長屋と損料屋・古着屋 | 日本食文化の醤油を知る](#)

[厠かわや — 奥深い便所の歴史 — | LIQ | 株式会社 TAKAYASU](#)

[江戸明治期史料旗本上ヶ屋敷図 \(123-2\) 元進藤三左衛門元屋敷総絵図 表六番町](#)